学校番号	3028

令和８年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	高等学校「地学基礎」（啓林館）						
副教材等	センサー地学基礎（啓林館）、サンダイヤル授業ノート（啓林館） ニューステージ地学図表（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

地学基礎では「地質」「気象」「宇宙」「環境」について学びます。扱う内容は基礎的ではあるものの「地の底から宇宙の果てまで」「137 億年前から 50 億年後まで」と多岐にわたります。幅広い教養を身に着けるための科目です。また、副教材として「地学」の教科書も利用します。授業中の特に重要なところは地学の教科書も読むことで理解を深めてください。日常生活に密接にかかわってくる内容が多く出てきます。生活の安全のためにも学べることが多くあります。授業のためならず、自分のためにもしっかりと勉強に取り組みましょう。毎回の予習復習は不要ですが、定期考査などを機会として、定期的な学習は怠らないでください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
地球や地球を取り巻く環境について日常生活や社会の関連との関連を図りながら理解し、基礎的な知識を身につけるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
今まで学んできた知識や実験・観察などを通して科学的に探究する力や表現する力を養う。地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，自然環境の保全に寄与する態度を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
問いや課題に対して、積極的に取り組む姿勢を養う。必要最低限の成果にとどまらず、自分でより高度な達成を目指して前向きに授業や学習に参加できるようにする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的にかかわり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間	第1部　固体地球とその活動	第１章　地球 第２章　活動する地球	a:地球の形や大きさ、内部の層構造、プレートの分布と運動、火山活動について理解する。 b:実験観察などを行い、思考力や表現力を身に付ける。 c:地球の状況に興味関心を持ち、積極的に授業に参加し、レポートや課題を提出する。	定期考査	定期考査　提出物	授業態度　提出物
前期期末	第2部　大気と海洋	第１章　大気の構造 第２章　太陽放射と大気・海水の運動 第３章　日本の天気	a:気圧や気温の変化、大気の構造、太陽放射、地球放射、海水の運動、大気と海洋の大循環について理解すること。 b:実験観察などを行い、思考力や表現力を身に付けること。 c:気象現象に興味関心を持ち、積極的に授業に参加し、レポートや課題を提出する。			
後期中間	第3部　移り変わる地球	第１章　地球の誕生 第２章　地球と生命の進化	a:宇宙、太陽系の誕生、生命の誕生、地質時代、生命と地球環境の相互作用について理解すること。 b:実験観察などを行い、思考力や表現力を身に付けること。 c:地球の歴史に興味関心を持ち、積極的に授業に参加し、レポートや課題を提出する。			
学年末		第３章地球史の読み方				
	第4部　自然との共生	地球環境 災害 人間生活と環境の変化	a:地球規模の自然環境、地球環境の変化やその仕組み、日本の自然環境の恩恵や災害について理解すること。 b:実験観察などを行い、思考力や表現力を身に付けること。 c:地球環境に興味関心を持ち、積極的に授業に参加し、レポートや課題を提出する。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度